

◆丁寧になぞり書きをしよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態

- ・小学部 肢体不自由・知的障害
- ・24時間酸素吸入が必要な児童である。
- ・夏休みに本児用のiPadを購入され、操作はタッチペンや指先で上手に行うことができる。

2 指導目標

- ・なぞり書きができる文字（い・こ・り・う・て・に など）を増やしていき、文字の形をとらえ、なぞり書きができる。
- ・線からなるべくはみ出さないようになぞり書きができる。

3 取組の中心となる教科・領域等

- ・国語科

4 使用したアプリ、周辺機器

- ・かなもじ

5 指導の経過及び児童生徒の変容

- ・指導期間 9月3日～1月20日
- ・iPad使用前は、ひらがなの文字カードでマッチングをしたり、鉛筆で線引きやなぞり書きをする練習を行ったりしてきた。しかし、自力で運筆することが難しかったり、書き順がわからなかったりするということが見られた。また、形のとらえかたも十分ではなかった。
- ・「かなもじ」アプリでタッチペンを使って文字のなぞり書きの練習をすることで、スムーズに文字を運筆することができるように成長してきた。その後は、プリントでのなぞり書きも文字の形をとらえて認識した上で、鉛筆でひとりでなぞり書きができるようになってきている。



- ・継続してiPadを使用していくことで、「かなもじ」アプリでの文字のなぞり書きをする際もかなり上達してきているのがわかる。なぞり書きのできる文字（い・こ・り・う・て・に など）も増えている。
- ・縦線や横線、斜め線の練習をなるべく線から、はみ出さないように描くことが、文字のなぞり書きをする上でもつながっていき、上手に書けるようになってきている。

「し」

「く」

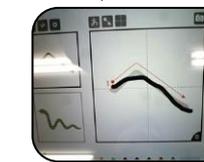
「つ」

「へ」

<9月20日時点>



<1月20日時点>



6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

- ・iPadは軽く画面をタップすることで操作ができるので、使いやすいようである。
- ・発声とともに文字のなぞり書きの練習をしていくことで、文字との結びつきにもつながり、文字の認識・理解力も高まり、興味・関心をもって、なぞり書きの学習に取り組むことができている。